

## 【事例 H29-24】 富山県

## 保健・医療・福祉・介護従事者向け相談の手引き作成

【概要】高齢者は、慢性疾患による持続的な身体的苦痛や身体機能の低下、将来への不安等をきっかけにうつ病を発病すると言われており、うつ病は高齢者の自殺の主な原因の一つとなっている。また、本県の高齢者の自殺死亡率が高い傾向にあることから、高齢者の支援に関わる方を対象に、高齢者のこころの理解、富山県の高齢者の自殺の状況、高齢者のうつ病、自殺の危険性が高いと思われる人への対応、専門機関への相談、自殺予防に関する Q&A 等を記載した冊子を作製し配布した。

## 【大綱の分類】

4. 自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上を図る
2. 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
5. 心の健康の支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
6. 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする
7. 社会全体の自殺リスクを低下させる

## 【政策パッケージ分類】

基本 2-5) 寄り添いながら伴走型支援を担う人材の育成

基本 3-1) リーフレット・啓発グッズ等の作成と活用

【事業実施年度】 2018 年度事例

【事業予算】 300,000 円

## 【利 点】

- ▼医療機関、介護事業所等に配布することで、支援者に高齢者の自殺リスクやサインに関する知識を持ってもらうことにより、心身の問題を抱えている高齢者を早期発見し、適切な対応及び高齢者の自殺リスクの低減につなげることができる。

## 【実施に至るまで】

**高齢者を対象に手引きを製作する理由**

- ・本県の自殺死亡率は例年全国平均以上（H29 年 17.9）であり、その中でも高齢者の自殺死亡率が高い傾向があることから、高齢者支援に携わる関係者が高齢者の自殺予防について十分理解し、高齢者が家族・地域・社会から孤立することなく、生きがいを持った生活を送ることが出来るようにするため手引きを作成する。

**実施するうえでの工夫**

- ・実際に手に取って読んでもらうため高齢者の自殺予防に関する情報をコンパクトにまとめた。
- ・実際に現場で高齢者と接する機会の多い、医療機関、老人福祉施設に対象を絞り配布した。

**具体的な内容**

## ▼ 事前の準備

- ・他自治体で製作した手引きを参考に内容の検討。（長崎県、滋賀県等を参考）
- ・配布先、製作部数等の検討。
- ・専門家（精神科医師）と担当者間で複数回具体的な内容についての打ち合わせ。

## ▼ 手引きの内容

- ・自殺の危険性が高いと思われる人への対応の仕方を記載

- ・ 高齢者のこころの理解のため、高齢に伴う脳のはたらきの変化、コミュニケーションの変化について記載
- ・ 自殺予防に関するQ&Aを作成（死にたいと言われた時の対応の仕方、自殺の危険性を知るためにはどうしたらいいのか等）

▼ 配布

- ・ 県内の医療機関、老人福祉施設等に4,000部配布。

【成 果】

- ▼ 高齢者の自殺リスクやサインに関する知識を持ってもらうことにより、心身の問題を抱えている高齢者を早期発見し、適切な対応及び高齢者の自殺リスクの低減につなげることができた。
- ▼ 配布先医療機関から追加配布の要望があったほか、マスコミを通じて冊子を知った一般県民から冊子がほしいと問合せがあった。

手引き送付先(医療機関)		
		送付部数
医療機関	病院(一般、精神)	535
	精神科診療所	135
老人福祉施設等	訪問介護事業所	1,190
	訪問看護ステーション	370
	在宅介護支援センター	130
	地域包括支援センター	305
行政機関	保健所、市町村、精神保健福祉センター等	1335



【補 足】

【課 題】

▼自殺者数は減少傾向にあるものの、80代の自殺死亡率は依然として高くなっていることから、高齢者向けの自殺対策を引き続き行っていく必要がある。

【事業種別】	普及啓発
【準備期間】	約90日
【人数】	1人
【人口規模】	1,055,893人(2017年10月末)
【財政規模】	約547,400,000,000円
【自治体負担率】	0%(国の地域自殺対策強化交付金を活用)
【事業対象】	県民(高齢者)
【支援対象】	県民(高齢者)
【委託の有無】	無
【実施主体・問合せ先】	富山県健康課精神保健福祉係 TEL:076(444)3223 E-mail:akenko@pref.toyama.lg.jp

【参考資料・文献】 特になし